2026 年 11 月 8 日降誕前第８主日　礼拝次第

子どもの祝福・主日礼拝

前　奏　　（黙　想）
招きの言葉　　ローマの信徒への手紙9章 15～16 節(新約 286 ページ)
讃 美 歌　　527(み神のみわざは)
主の祈り　　＜C＞(讃美歌93－5)
詩 編 交 読　　詩105編 1～11 節(交読詩編 119 ページ)
聖　書　　創世記18章 1～15 節(旧約 23 ページ)
祈　祷
讃 美 歌　　184(アブラハム・アブラハム)
説　教　　「来年の今ごろ」　田中雅弘
讃 美 歌　　449(千歳の岩よ)
信 仰 告 白　　使徒信条＜B＞(讃美歌93－4)
献　金
讃 美 歌　　88(こころに愛を)
派 遣 祝 福
後　奏　　（黙　想）
報　告
※讃美歌は原則として全節を歌います。

主の祈り C(讃美歌21　93－5－C)

司式者）天の父
一　同）わたしたちの父よ,
み名があがめられますように。
あなたの国が来ますように。
みこころが天と同じく地でも行われますように。
きょうのパンを　きょうお与えください。
わたしたちの負い目をおゆるしください。
わたしたちも負い目をゆるし合います。
わたしたちを誘惑におちいらせず,
かえって悪からお救いください。
国も力も栄えも、限りなくあなたのものです。アーメン

聖　書　創世記18章 1～15 節

イサクの誕生の予告

1 主はマムレの樫の木の所でアブラハムに現れた。暑い真昼に、アブラハムは天幕の入り口に座っていた。 2 目を上げて見ると、三人の人が彼に向かって立っていた。アブラハムはすぐに天幕の入り口から走り出て迎え、地にひれ伏して、 3 言った。「お客様、よろしければ、どうか、僕のもとを通り過ぎないでください。 4 水を少々持って来させますから、足を洗って、木陰でどうぞひと休みなさってください。 5 何か召し上がるものを調えますので、疲れをいやしてから、お出かけください。せっかく、僕の所の近くをお通りになったのですから。」その人たちは言った。「では、お言葉どおりにしましょう。」

6 アブラハムは急いで天幕に戻り、サラのところに来て言った。「早く、上等の小麦粉を三セアほどこねて、パン菓子をこしらえなさい。」7 アブラハムは牛の群れのところへ走って行き、柔らかくておいしそうな子牛を選び、召し使いに渡し、急いで料理させた。 8 アブラハムは、凝乳、乳、出来立ての子牛の料理などを運び、彼らの前に並べた。そして、彼らが木陰で食事をしている間、そばに立って給仕をした。

9 彼らはアブラハムに尋ねた。「あなたの妻のサラはどこにいますか。」「はい、天幕の中におります」とアブラハムが答えると、 10 彼らの一人が言った。「わたしは来年の今ごろ、必ずここにまた来ますが、そのころには、あなたの妻のサラに男の子が生まれているでしょう。」サラは、すぐ後ろの天幕の入り口で聞いていた。 11 アブラハムもサラも多くの日を重ねて老人になっており、しかもサラは月のものがとうになくなっていた。 12 サラはひそかに笑った。自分は年をとり、もはや楽しみがあるはずもなし、主人も年老いているのに、と思ったのである。

13 主はアブラハムに言われた。「なぜサラは笑ったのか。なぜ年をとった自分に子供が生まれるはずがないと思ったのだ。 14 主に不可能なことがあろうか。来年の今ごろ、わたしはここに戻ってくる。そのころ、サラには必ず男の子が生まれている。」 15 サラは恐ろしくなり、打ち消して言った。「わたしは笑いませんでした。」主は言われた。「いや、あなたは確かに笑った。」

讃美歌527番

み神のみわざは　すべて正しい。
み心のままに　従いゆこう。
主こそはわが神、悩みのときの
私の助け。

2　み神のみわざは　すべて正しい。
私の悩みと　病をいやし、
私をかえりみ、み心にとめ
なぐさめられる。

3　み神のみわざは　すべて正しい。
飲むべき杯　苦いとしても
ためらうことなく　主より受ければ
よろこびとなる。

4　み神のみわざは　すべて正しい。
悲しみと死との　あらし吹いても
主は父のように、み腕に抱いて
私を守る。

讃美歌　184番

答唱　アブラハム，アブラハム，
生まれた　故郷を　離れて，
アブラハム，アブラハム，
父の家を　離れて。

1　わたしが示した　土地に行きなさい。
私の民の　父となるだろう。

2　わたしはあなたを　祝して導く，
おとなと子ども，すべての人を。

3　導かれるまま，示された道を，
嘆かず進み　ためらわず行け。

讃美歌88番

心に愛を　豊かにみたし
日ごとのわざに　つかわしたまえ

讃美歌449番

1　千歳の岩よ　わが身を囲め
裂かれし脇の　血潮と水に
罪もけがれも　洗いきよめよ

2　かよわき我は　おきてに耐えず
燃ゆる心も　たぎつ涙も
罪をあがなう　力はあらず

3　十字架のほかに　頼むかげなき
わびしき我を　憐れみたまえ
み救い無くば　生くるすべなし

4　世にあるうちも　世を去る時も
知らぬ陰府（よみ）にも　さばきの日にも
千歳の岩よ　わが身を囲め